

キビるフェス 2020

～福岡きびる舞台芸術祭～

報告書

団体
会場

村川拓也 | 京都 | パピオビールーム大練習室

DOORプロデュース | 大阪 | ぽんプラザ

ホール

ブルーエゴナク | 北九州 | 劇団きらら

熊本 | ゆめアール大橋大練習室

庭劇団ベニノ | 東京 | なみきスクエア大練習室

FUKUOKA
Kibiru

福岡きびる舞台芸術祭

STAGE ART FESTIVAL

キビるフェス 2020

2020年
2/8[土]
↓
3/1[日]

キビるフェスとは
福岡市内の音楽・演劇練習場を会場に、
各地の演劇団体の作品を上演する舞台芸術祭。
舞台芸術を橋渡しとして、参加団体・観客・会場をきびります。
※きびる＝福岡の方言で「結ぶ」「つなぐ」などの意味

主催: (公財)福岡市文化芸術振興財団
西部ガス興商株(千代音楽・演劇練習場指定管理者)
福岡舞台芸術施設運営共同事業体(祇園音楽・演劇練習場指定管理者)
(一社)九州地域舞台芸術振興会(大橋音楽・演劇練習場指定管理者)
なみきスクエアみらいネットワーク(千早音楽・演劇練習場指定管理者)
福岡市
企画制作: アートマネジメントセンター福岡
協賛: 九州地区舞台芸術運営協同組合
お問合せ: ぽんプラザホール TEL 092-262-5027

https://kibirufes-fuk.localinfo.jp

キビるフェス2020

beyond
2020

01.	目的・スケジュール
02.	チケット・実績
03.	参加作品紹介（村川拓也）
04.	参加作品紹介（DOOR プロデュース）
05.	参加作品紹介（劇団きらら）
06.	参加作品紹介（ブルーエゴナク）
07.	参加作品紹介（庭劇団ペニノ）
08.09.	関連企画
10.11.	メディア掲載情報
12.13.14.	アンケート
15.16.	雑感

事業の目的

『全国と福岡の舞台芸術団体をきびる』

『観客と舞台芸術をきびる』

『福岡の舞台芸術活動の場をきびる』 など

福岡の方言の「きびる」＝「結ぶ」に思いを込めて実施する舞台芸術祭です。

目的①

団体同士を「きびる」こと、「交流」がキーワード！

上演団体同士や劇団と観客が互いに交流できる関連企画を予定しています。

参加劇団が互いの芝居を観劇して意見交換をしたり、アフタートークに参加したりと、交流の輪が広がることを願っています。

目的②

連続して作品を上演する催事を行い、魅力ある街づくりの一翼を担う

フェスティバル形式で実施し、他地域から福岡では観られない作品を招聘。

九州からは育成の観点から選出した団体の上演を行います。

目的③

音楽・演劇練習場が連携、文化芸術を盛んにする流れを作り出す

西部ガス興商株式会社（千代音楽・演劇練習場指定管理者）、
福岡舞台芸術施設運営共同事業体（祇園音楽・演劇練習場指定管理者）、
九州地域舞台芸術振興会（大橋音楽・演劇練習場指定管理者）、
なみきスクエアみらいネットワーク（千早音楽・演劇練習場指定管理者）が、
福岡市文化芸術振興財団・福岡市と共に、共同主催で開催いたします。

スケジュール

●＝はしご観劇推奨日！

	2/8[土]	2/9[日]	2/22[土]	2/23[日]	2/24[月祝]	2/29[土]	3/1[日]
13:00		きらら			エゴナク	ペニノ	
14:00					村川	DOOR	ペニノ
15:00	きらら						DOOR
16:00		きらら	エゴナク	エゴナク			
17:00							
18:00						ペニノ	
19:00	きらら		村川	村川		DOOR	

出演：きらら＝劇団きらら エゴナク＝ブルーエゴナク 村川＝村川拓也 ペニノ＝庭劇団ペニノ DOOR＝DOORプロデュース
会場：■＝ゆめアール大橋 ■＝パピオビールーム ■＝なみきスクエア ■＝ぽんプラザホール

チケット

共通チケット

チケット料金：8,500 円（限定 20 枚）

チケット取扱：ローソンチケット

販売期間：2019 年 12 月 1 日～2020 年 2 月 7 日

※販売実績 19 枚。5 団体の演目が各 1 回観劇できるチケット。（購入後、電話での日時指定が必要）

キビる割

2 団体以上観劇の場合、割引になるシステム

実績

会場名	団体名	公演日時	客席数	入場者数	入場率
パピオビールーム	村川拓也	①2月22日（土） 19:00	74 席	61 名	82%
		②2月23日（日） 19:00	86 席	89 名	103%
		③2月24日（月祝） 14:00	82 席	67 名	82%
ゆめアール大橋	劇団きらら	①2月 8日（土） 15:00	54 席	54 名	100%
		②2月 8日（土） 19:30	54 席	53 名	98%
		③2月 9日（日） 13:00	52 席	41 名	79%
		④2月 9日（日） 16:00	52 席	47 名	90%
	ブルーエゴナク	①2月22日（土） 16:00	34 席	31 名	91%
		②2月23日（日） 16:00	37 席	34 名	92%
		③2月24日（月祝） 13:00	34 席	30 名	88%
ぽんプラザホール	DOORプロデュース	①2月29日（土） 14:00	64 席	34 名	53%
		②2月29日（土） 19:00	64 席	36 名	56%
		③3月 1日（日） 15:00	64 席	34 名	53%
なみきスクエア	庭劇団ベニノ	①2月29日（土） 13:00	80 席	52 名	65%
		②2月29日（土） 18:00	80 席	53 名	66%
		③3月 1日（日） 14:00	80 席	65 名	81%
合計				781 名	

▼キビるトーク

劇団きらら	2月 9日（日） 16:00 終演後	参加者：40名
村川拓也	2月23日（日） 19:00 終演後	参加者：70名

▼キビるカフェ

ブルーエゴナク	2月24日（月祝） 13:00 終演後	参加者：7名
庭劇団ベニノ	2月29日（土） 14:00 終演後	参加者：8名
DOORプロデュース	2月29日（土） 19:00 終演後	参加者：5名
村川拓也	2月22日（土） 19:00 終演後	参加者：5名

※村川拓也公演でのキビるカフェ主催は柴山麻妃氏。



撮影：富永亜紀子

村川拓也 Pamilya (パミリヤ)

パピオビールーム大練習場

演出：村川拓也
出演：ジェッサ・ジョイ・アルセナス
ドラマトゥルク：長津結一郎

日時：2月22日（土）19:00
2月23日（日）19:00
2月24日（月・祝）14:00

チケット料金：
一般前売：2,500 円（当日 3,000 円）
学生前売：2,000 円（当日 2,500 円）
高校生以下：1,000 円（当日 1,500 円）

作品紹介

ある「現実」を手がかりに舞台作品を立ち上げる、京都を拠点に活動する演出家、村川拓也。今回の作品制作にあたり村川は、福岡で介護福祉に関わる30名へのリサーチを行った。そこで出会ったのが、ある特別養護老人ホームで働く、フィリピンから来た外国からの介護福祉士候補生だった。介護福祉施設の日常には、言語を通じた親密なやりとりと、身体同士の接触が入り混じる。その空間に目を凝らすことで、普段は気に留めることのない、しかしいまこの瞬間もどこかで毎日続いているかもしれないコミュニケーションに気づく。今回の作品では、フィリピンから来た介護士が実際に出演し、彼女が働く福祉施設の日常が淡々と舞台上で再現される。その時間感覚に直面することで観客は、自分に近い身内の人々や、もしかしたらあり得るかもしれない自らの姿に思いをめぐらせるだろう。『Pamilya (パミリヤ)』はタガログ語で「家族」を意味する。フィリピンでは介護は家族が担うものという価値観があるが、そのスタンスは日本の状況とどのような共鳴を生み出すのか。異なる年代、経験、国、言語——家族とも友人とも異なる「ケアをする／される」関係。フィリピンからやって来た介護士と、介護される日本人の間で、もうひとつの「家族」の物語が始まる。

演出家紹介

演出家・映像作家。1982年生まれ。京都市在住。ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を、映像・演劇・美術など様々な分野で発表し、国内外の芸術祭、劇場より招聘を受ける。村川は、虚構と現実の境界の狭間で表現の方法論を問い直し、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。1人のキャストとその日の観客1人を舞台上に招き、介護する／されることを舞台上に再現する『ツァイトゲーバー』（2011）は国内外で再演され、2014年にはHAU Hebbel am Ufer（ベルリン）の「Japan Syndrome Art and Politics after Fukushima」にて上演。近作、『インディペンデントリビング』はKYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2017で初演し、テアターフォルメン（ブラウンシュバイク、2018）に招聘された。セゾン文化財団ジュニア・フェロー、京都造形芸術大学舞台芸術学科 非常勤講師。

公演チラシ



劇団からの感想

福岡で上演できる機会をいただいたことに、まず感謝の気持ちをお伝えしたいです。村川作品を福岡で上演をしませんか、と福岡市文化芸術振興財団さんからお話をいただいてから、こちらの都合で約3年かかってしまいましたが、キビるフェスという場で新作を上演できたのはとても大きかったです。「福岡で作品をつくる」というきっかけから、出演者のジェッサさんと出会い、『Pamilya (パミリヤ)』という作品は始まりました。また、今回が初めての九州地方での上演でし、福岡のお客さんや、福祉関係の仕事に従事している方、いわゆる戯曲のない、ドキュメンタリー形式の演劇を初めて観る方など新しい観客層の方にも観ていただき、感想を聞くことができたのも良かったです。ひとつ心残りだったのは、フェスティバル開催期間中に他の参加団体や、キビるフェスのスタッフの方とゆっくりお話できる機会が持てなかったことです。こちららも本番でバタバタしていて他団体さんの公演を観に行けなかったのも残念でした。今後、同じ週に3団体の上演や、開催期間を短くしたり、クロージングイベントなどで参加団体やお客さんが集まる機会があれば、もう少しキビる機会も増えるのかなとも思いました。しかし会場のスケジュールや人手の問題があるでしょうし、なかなか難しいところだとも思います。制作面では少人数でフェスティバルを運営しているにもかかわらず、こちらに親身になっていただける運営体制は本当にありがたかったです。特に事務局とテクニカルの担当の方々には本当にお世話になりました。他府県から上演する団体にとって、当日の制作運営や、テクニカル関係のスタッフ集めにご協力いただいたことは本当に助かりました。また、新型コロナウイルスの件で上演すべきかどうかを選択しなければならなかった時に、フェス事務局の方々が力強く上演する方向に進めていただいたおかげで、上演することができたと思っています。今の状況を考えるとまず上演できたことが何よりも良かったです。そして『Pamilya (パミリヤ)』は必ずまた再演したいと考えています。

Pamilya (パミリヤ) 公演／制作・豊山佳美

お客様からの感想

- ・「人」の在り方、「家族」の在り方、いろんな形がある。あっていいと思える舞台をありがとう。
- ・演出家が人の営みをとても愛していることが感じられた。
- ・もう少しいろんな面の中に入り込んだ内容を希望する。
- ・演劇の役者が舞台上に立っているわけではないことにとっても驚いた。一人の介護する人と当日会場に来た観客を介護される人に見立てて作られる空間が真新しく、舞台という場所の面白さを感じた。
- ・介護する人とされる人を実際に目の前で見ることでその人の気持ちを感じることができた。新しい舞台。
- ・知らない世界や物語は至るところに落ちている。この舞台を見なければジェッサさんの物語は知らなかった。この物語に出会えてよかった。
- ・強く何かを伝えようとするのではなく、日常を見せることが、こんなに人の心を動かすのだと驚いた。



DOOR プロデュース ピタゴラスのドレス

ぽんプラザホール

作・演出：虎本剛（ステージタイガー）、
出 演：小川十紀子（遊気舎）、
飯嶋松之助（KING&HEAVY）、
是常祐美（シバイシマイ）、
うえだひろし（リリパットアーミーII）、
澤井里依（舞夢プロ/EVKK）、
大江雅子、早川丈二（MousePiece-ree）

日 時：2月29日（土）14:00/19:00
3月1日（日）19:00

チケット料金：
一般前売：2,800 円（当日 3,000 円）
カップル割：5,000 円（男女組み合わせ自由）

作品紹介

夏川幸子（42）は、交際していた16歳年下の乙部翔太（26）との結婚を目前に姿を消し、実家の兄が経営する民宿「なつかわ」に逃げ込んでいた。同郷の友人達と過ごしているところ……居場所を突き止めた翔太がやってきてしまう。「戻ってきてください。あなたに割り切れない思いがあるなら、僕がわりきってみせます。それまで帰らない」と息巻き、宿泊し続けることに。そんな翔太に「ピタゴラス」とあだ名をつけ、困惑する皆。その上、翔太を追いかけて翔太の姉もやってきてしまう。幸子が逃げ出した本当の理由は？結婚はどうなってしまうのか？
これからの人生に迷う幸子と取り巻く人々の物語を通して、オトナ女性の「幸せの在り方」を問う作品。

団体紹介

2011年4月旗揚げ。河口円が一人企画製作する演劇プロデュースを以後「DOOR プロデュース」と銘打ち、公演を続ける。
「アラサー以上の女性の明日がほんの少しだけ元気になるってほしい」というコンセプトの元、大阪を中心に活動。作・演出、役者、スタッフとともに関西弁のシンプルなかかりやすい会話劇を創る。
30代40代を過ぎた女性の生き方は人生で大きく環境が変わっていく時期。悩み苦しむ人が多い中、さらに生き方の選択肢（DOOR）が次々増える。そんな女性達に「明日をほんの少しだけ元気に迎えることができる」エールになりたい。そして……
どんな生き方をしても、自分の生き方に「誇り」をもってほしい。そんな女性が増えることを願っています。

公演チラシ



劇団からの感想

奇跡だったんですかね。と言われてます。福岡公演から1か月以上たちました。その節は本当にお世話になりました。
初の地方公演、初の演劇祭参加。正直不安しかなかったです。個人営業でやってる分、チケットが売れなければただただ自分の生活ができなくなります。でも、感覚として「やらなければ一生公演できない」というタイミングでもあったし、実は来年10周年なので挑戦しました。しかし、名もない劇団にとってはなかなかヘビーだということに気づきました。そして、コロナ。宣伝なんてできるわけがない。それでなくても売れてないのに。手も足も出なくて、覚悟を決めていきました。福岡では毎晩涙が出ました。どうしていいかわからなくてつらかった。安全に感染者が出ませんように、SNSの発信もできず、家族からも心配されてました。・・・そして貯金をすべて使って定期も解約して。今ここです。いやはや。力のないものが場違いなところに行ってしまった。という気持ちです。公演後2週間気が気じゃなくて、1カ月後に出演者に逢った時ほっとして、疲れがでたのかふらふらでしたが、今やっと振り返ってます。でもね、楽しかったんです。福岡の人は優しく、新しいところで作品を観てもらうことが本当に嬉しかった。作品を受け入れてもらえたという自負はあるし、スタッフの皆さんがあつたかった。色んな人に来てくれてありがとうと言われる公演なんてあるんだと、それが本当に幸せでした。今は公演できてよかったと思ってます。これはほんまに。次回も・・・と言いたいところですが、どんどん演劇界に対する情勢が変わってきたので今後演劇を続けられるかわかりませんが、もし続けることができるのならいつか必ず福岡ぽんプラザホールで公演をしたいと思ってます。その時はまたよろしくお願いします。ホントにお世話になりました。いつか終息したらふらっとどん食べに行きます。どうぞそれまでご体調に気を付けて。そして心穏やかに過ごされますように。

DOOR プロデュース／プロデューサー・河口円

お客様からの感想

- ・初めて生の演劇を見ました。セットとか少ないと思ったけど、どんどん引き込まれました。
- ・中盤まで本音のぶつかり合いと過剰な演技についていけなかった。
- ・素晴らしかった。こんな作品が社会を元気にしてくれると思いました。
- ・ストーリー性が高くて分かりやすい。大阪らしい楽しい劇でした。2時間ドラマの完結性の高さと舞台ならではの躍動感が見事に両立していたと思う。



撮影：藤本彦

劇団きらら 70点ダイアリーズ

ゆめアール大橋大練習室

作・演出：池田美樹
出 演：菅野貴夫、なかむらさち、
磯田 渉（不思議少年）、
オニムラルミ、池田美樹

日 時：2月8日（土）15:00/19:30
2月9日（日）13:00/16:00

チケット料金
前売：2,300 円（当日 2,800 円）
リピーター割引：1,000 円（要半券提示）

作品紹介

憧れの職場での過緊張で声が出なくなってしまった青年、「副業」として運転代行のアルバイトを始める。勤務時間は19時から午前4時。昼間の仕事を終え、事務所に集って来る癖の強いドライバーたち。言葉を発さぬ青年のことも普通に受け入れる彼ら。今まで知ることのなかった場所で日々を過ごすうち、うすぼんやりとしていた世界が少しずつクッキリとし始める。
70点ってどんな点？収入・恋愛、ごはんの内容、今の生活に点数をつけるとしたら。満点夢みて生きていたのに、いつの間にかそうでない状況になった人たち。でも「夢」と「幸せ」は同じ線上にあるのだろうか？
変わらぬ明日の見え方が変わる社会派コメディ。

劇団紹介

1985年の結成以降、熊本を中心に活動、福岡・東京でも公演。一貫して代表池田美樹が折々の社会現象に着想を得た作品を上演。近年は中高年の病気や失職、遺産分配など「大人ならではの悩み」をユーモラスに描き、独自の視点で現代劇を数多く生み出している。箱馬やコートハンガーの見立てと役者のマイムや口三味線で様々な空間を作り出す演出が特徴的。「ぼくの、おばさん」で平成27年度希望の大地の戯曲「北海道戯曲賞」優秀賞受賞。

公演チラシ



劇団からの感想

劇団きららはキビるフェス参加2回目でしたが、今回も“きらら初めて”なお客様との出会いを沢山いただきました。事前の記者会見や共通チラシの作成、雑誌・情報誌への掲載、DMなどで、劇団単独では露出が難しいものや広範囲に渡って告知できたこと、共通チケットやキビる割などフェスならではの工夫があったこと、それらに後押ししていただいたおかげと思います。アンケートやSNSでもお客様から沢山の反応をいただき、大変有り難かったです。県外から限られたマンパワーで伺う私たちにとっては、告知だけでなく、小屋入りからのテクニカル・スタッフの同席や受付周りのお手伝いなど現場でのサポートが大変心強く、助かりました。ちょうど新型コロナウイルス感染症の拡大初期で、受付にお客様用の手指消毒液やマスクを準備するなどイレギュラーな対応が発生しましたが、それも事務局や財団スタッフの皆さんにご相談しながら準備・対応することができました。1日仕込・2日公演＆バラシの弾丸スケジュールでしたが、事故やケガなく終えられたことにほっとしています。

他団体さんとお互いの公演を観に行くことがなかなか難しく、その点が残念でした。そんな中、大阪からの距離を押してDOORプロデュースの河口さんにご来場下さったのはすごく驚きましたし、嬉しかったです。

印象深かったのは、お客様からキビるフェスを毎年楽しみにしているというご感想をいただいたことです。事務局がその時々で興味深い作品をセレクトされたり、トークやカフェなど作品を掘り下げて接せられる工夫などを地道に重ねておられることで、お客様からのフェスへの信頼や期待が生まれているのではないかと思います。

劇団きらら／制作・古殿万利子

お客様からの感想

- ・初めて演劇というものを観覧した。分かりやすく迫力がありよかった。また機会があったら観劇したい。
- ・かなり期待してきましたが、それをはるかに超える感動をもらいました。
- ・とても素敵な作品でスピード感もあって好き。自分は子供で作品の理解はできても共感できる部分が少なかった。それだけ周りに支えられて守られているのだと気づいた。
- ・幸せは自分で決めるということに改めて気づいた。



ブルーエゴナク 愛のえんえん

ゆめアール大橋大練習室

作・演出：穴迫信一

出演：野村明里、鈴木隆太、出光真侑、
小関鈴音、溝口竜野

日時：2月22日（土）16:00
2月23日（日）16:00
2月24日（月・祝）13:00

チケット料金：

一般前売：2,500 円（当日 3,000 円）

U22 前売：2,000 円（当日 2,500 円）

高校生以下：1,000 円（当日・前売共通）

作品紹介

ある家族。母親と子ども達は、小さなすれ違いからいつしか家では一言も言葉を交わさなくなった。外側の現実と平行して、内側を巡る思いの中に、ささやかな真実が見つかる――。

欠けたままのわたしたちにとっての、決して満ちない場所への応答。記憶から綴られる〈モノローグ＝独白〉が映し出すブルーエゴナクの家族劇。共生というテーマの下、世界を形成するコミュニティの中の最小単位としての「家族」を描く。2019 年 12 月に北九州にて初演を迎えた、劇団員のみによるレパトリー作品。

劇団紹介

北九州市拠点。地域を拠点に、国内外に通用する新たな演劇作品の創造と上演を趣旨として活動。リリック（叙情詩）を戯曲に組み込む点や、ビート感の高い演出手法を特徴としている。劇場のみならず、商店街やモノレール車内など多彩な場所で演劇作品を制作。また、京都や香川など他地域での滞在制作も多数。2018 年には、ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム「KIPPU」に選出され『sad』を上演。

公演チラシ



劇団からの感想

この度は大変お世話になりました。約5年ぶりに福岡市での公演の機会をいただき、大変感謝しております。また、今後も福岡市での公演を定期的に行っていきたいという意欲も生まれました。

・ゆめアール大橋とのやりとり（主にテクニカル面について）

ゆめアール大橋にテクニカル専任の方が居られないことで窓口が少し分りにくかったように感じます。今公演の照明を担当した者とのフィードバックの中で出た意見としまして、直接お聞きしても判然しない部分については、ゆめアール大橋での上演経験のある照明家の方からアドバイスをいただいたようです。劇場ではない大練習室をどう使うか、またその使い方を選択した場合どうい問題があるかなどを、未経験の団体だけで整理・判断することは難しく感じました。（我々が前例にない使い方を選択したことも理由にあると思いますが、）また、我々も予算を抑える中でテクニカルスタッフの人員を必要最低限まで削ったこともあり、やり取りが遅れてしまったことを反省しております。御対応いただいたゆめアール大橋のスタッフの皆様には大いに感謝しております。

・事務局とのやりとり

主にご連絡をいただいております担当の皆さまにはいずれの方も丁寧に御対応いただきとても感謝しております。特にこちらの都合で公演中止を判断した際には、温かく御対応いただきとても励みになりました。本番では事務局経由で照明機材をお借りしたのですが、それがもう少し早めに分かっていると借りる機材と持ち込む機材の選別などがもう少しスムーズだったかなと感じました。

・集客について

集客には最後まで苦戦した印象でした。公演中止もありチラシの納品が遅れたことなど、原因は様々あるのですが、もう少しフェスティバルと連携する形で福岡の観客の皆様アプローチする機会を作れたら良かったのかなと思います。参加団体同士の交流なども少なく感じたので、もう少し全体でフェスティバルとして盛り上がっている印象を与えるための広報戦略などが必要だと感じました。

ブルーエゴナク／代表・穴迫信一

お客様からの感想

- ・災害で亡くなった人、自身が死んだことに気づかない人、人の記憶に残された思い出、物に記録された思い出、物語が進むにつれて考えさせられました。
- ・テキストのギミックは好きだが、いつもの特徴の“音を浴びるような体験”を期待していたので物足りなかった。
- ・高校で演劇をしています。この劇団のファンになりました。舞台上の奇妙であいまいな空間が心地よかった。
- ・ささいなことで崩れてしまう日常のはかなさと人間の強さを感じた芝居だった。



撮影：杉能信介

庭劇団ペニノ 蛸入道 忘却ノ儀

なみきスクエア大練習室

作・演出：タニノクロウ
出 演：木下出、島田桃依、永濱佑子、
西田夏奈子、日高ボブ美、
森準人、森山冬子、山田伊久磨

日 時：2月29日（土）13:00/18:00
3月1日（日）14:00

チケット料金：
前売：3,800円（当日：4,300円）

作品紹介

庭劇団ペニノでは、極限まで磨き上げられた演技と精密かつ大胆な舞台美術によって構築される独自の世界観で観客を圧倒してきた。本作では寺院を模した空間を劇場に建立し、観客はその内部に招き入れられるだけでなく、俳優たちが執り行う儀式的なパフォーマンスに巻き込まれていく。経典の反復とヴァリエーション、かき鳴らされる楽器、充滿する香りと熱気。五感が総動員され、音楽的な快楽に身体を明け渡し、時間感覚を見失ってしまうあやうい没入感から逃れるのは容易ではない。リアルとフィクションの境界が溶け去った時、わたしたちはなにを忘却してしまうのか。

劇団紹介

2000年1月、昭和大学演劇部メンバー有志にて「庭劇団ペニノ」を結成。自宅マンションを改造した劇場スペース「はこぶね」や野外での公演など、作り込んだ舞台美術とともに上演空間には透徹したこだわりを持つ。「フェスティバル/トーキョー09秋」や「ふじのくにせかい演劇祭」、「KYOTO EXPERIMENT」など国内の主要な国際舞台芸術祭に多数招聘。『苛々する大人の絵本』は09年にベルリン（独）、10年にチューリッヒ（スイス）、 Groningen（オランダ）などで上演され、スイスの著名な演劇賞 ZKB Patronage Prize 2010 にノミネートされた。また『誰も知らない貴方の部屋』のアメリカ5都市ツアーを行い好評を得た（2014年）。2015年『大きなトランクの中の箱』がウィーン芸術週間、世界演劇祭にて招聘され、ウィーン地元紙で五つ星の評価を得た。2016年『地獄谷温泉 無明ノ宿』ヨーロッパ4カ国ツアーを行ない、高い評価を得た。2018年、ジャポニスム2018の公式企画としてフランス・ジュヌヴィリエで「ダークマスター」と「地獄谷温泉 無明ノ宿」を連続上演し、話題となる。

公演チラシ



劇団からの感想

今回は大変な状況の中、福岡公演ができたこと、本当に良かったです。

連日のコロナに対する報道で不安な状況下、お客様がとてもポジティブに参加していたこと、励みになり、また希望になりました。

集客については、ペニノにとって福岡公演が初めてだったこともあり、またコロナの影響もあり、集客が難しく、ご苦勞をおかけしてしまいましたが、考える限りのことをやっていただき、ありがとうございます。今後も定期的に福岡公演を続けていけたら、お客様も徐々に増えていくかな、と推測しますが、やはり交通費、滞在費の問題があるので、どのような予算規模の作品を福岡で公演するか、など今後は考えていかなければ、と思います。

庭劇団ペニノ／制作・小野塚央

お客様からの感想

- ・いつも間にか自分の中に眠っていた何かの力が動き出す感じがよかった。普通の芝居もぜひみたい。
- ・すごい作品だといろんなところから聞いていたけど本当にすごかった。
- ・観客を劇の中に没入させるための仕組みが数多くあり、これからの芸術の一端を見た気がする。
色々な芸術を横断した素晴らしい演出の作品だった。
- ・福岡でよく観劇をしているが、こんな舞台があるのか！と衝撃を受けた。

キビる交流会

場 所：イベントスペース
メトロニッツ博多
日 時：2019年10月2日（水）
19:00～21:00
参加費：2,000円
（軽食、ドリンクあり）

<告知文>

キビるフェスでは、2020年2月・3月の開催に先駆け、地元の劇団や関係者の方と参加劇団のメンバーが交流できる機会として、各団体のPRを兼ねた「キビる交流会」を開催することとなりました。福岡で演劇に携わる方はもちろん、今回来福される劇団のファンという方や他地域の演劇関係者と話してみたいという方、是非お気軽にご参加ください。

<報告>

記者会見で参加団体が一堂に会する機会に、地元演劇人の参加も想定した交流会を実施。参加団体の中の1団体が急遽不参加となり、残念ながら全体での打ち入りとはならなかった。参加団体からの出席者5名、フェス関係者7名、地元演劇団体や関係者2名の計14名が親交を深めた。イベントスペースでの実施のため、ホームパーティのような雰囲気となり、ゆっくりと交流できた。福岡の関係者が関係者割引で個人的なつながりのお客様を集めるという話も出て、券売にも結びついた。

キビるカフェ

1. ブルーエゴナク
日 時：2月24日（月祝）
13:00 終演後
会 場：珈琲館
参加者：7名
団体からの参加：穴迫信一（作・演出）

2. 庭劇団ベニノ
日 時：2月29日（土）
14:00 終演後
会 場：茶房 Tre.
参加者：8名
団体からの参加：タニノクロウ（作・演出）

3. DOOR プロデュース
日 時：2月29日（土）
19:00 終演後
会 場：カフェオットーシクロ
参加者：5名
団体からの参加：河口円（プロデューサー）
虎本剛（作・演出）

番外 村川拓也演劇公演
日 時：2月22日（土）
19:00 終演後
会 場：ロイヤルホスト
参加者：5名
団体からの参加：長津結一郎
（ドラマツルグ）
豊山佳美（制作）
※柴山麻妃さんの主催イベントとして実施

<告知文>

作品を観た後にお茶を飲みながら、一緒に作品について語り合いませんか。

観劇後に自分の中に沸き起こる様々な想いをみんなでシェアし、作品を味わい尽くす企画です。

演出家や役者など、作品の関係者の登場もあるかも??

<報告>

初回のブルーエゴナクのカフェ参加者が、以降の別団体の予約をカフェ実施回に振り替えるなど、毎回または複数回参加する人の姿が目立った。この場があることで、観劇後に作品を自分に浸透させてゆく時間をもつことができている。参加者に変な好評。今回は観劇後の感想・評価が分かれる作品が多かったこともあり、さまざまな感想が出て盛り上がった。



ブルーエゴナク



庭劇団ベニノ



DOOR プロデュース

キビるトーク

進行：大澤寅雄（ニッセイ基礎研究所）

アシスタント：宮田智史（NPO 法人ドネルモ）



2020年2月9日（日）

劇団きらら

「70点ダイヤリーズ」

16:00 終演後



2020年2月23日（日）

村川拓也

「Pamilya（パミリヤ）」

19:00 終演後

<報告>

今年の「キビるトーク」は、劇団や上演作品と観客をキビることを念頭に、準備を進めた。通常のアフタートークでは、ゲスト、又は進行役が聞きたいことを、作家又は演出家に聞いていくことが多いが、それだけに留まらず、観客が聞きたい、と思うことを、いかに拾っていけるか、ということを考え、終演からトーク開始までの準備時間に、用紙を配って質問を書き出してもらうことにした。それにより一定の匿名性が保たれ、様々な質問を観客から引き出すことが出来た。

どこから作品テーマを引っ張ってくるのか、なぜ、このキャストを選んだのかなど、作品創作における根のような話から、稽古中とにかく面白かったことや、学校時代の話など、フランクな話まで、幅広い話が聞ける場となった。

アフタートークのしつらえとして、観劇後にみんなでお茶をしに来たような印象になるように、と、ホワイトボードや質問用紙などにも工夫を凝らしたが、それも併せて観客には楽しんでもらった様子が伺えた。

令和2年2月18日_毎日新聞



令和2年2月18日_朝日新聞



令和2年2月27日_朝日新聞



令和2年3月18日_朝日新聞



WEB 掲載一覧	12 月 3 日	ステージナタリー	ラインナップ紹介
	1 月 17 日	mola!	間もなく開幕
	1 月 27 日	mola!	劇団きらら公演紹介
	1 月 31 日	mola!	村川拓也公演紹介
	2 月 1 日	mola!	DOOR プロデュース公演紹介
	2 月 8 日	ステージナタリー	開幕記事
	2 月 19 日	mola!	庭劇団ベニノ公演紹介
	3 月 15 日	art space	村川拓也公演レビュー

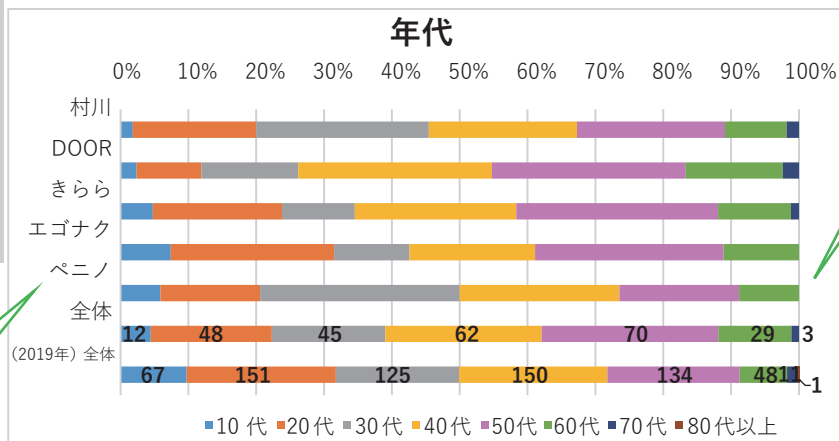
キビるフェスの目的

	市民（鑑賞者）	劇団（地元）	劇団（他都市）	その他（行政など）
全国の舞台芸術 × 福岡の舞台芸術	①質の高い作品を観覧する 機会の享受 ②質の高い作品の観覧による 鑑賞力の向上	④質の高い作品の観覧や 先進的な他都市劇団との 交流による劇団及び作品の 質の向上 ⑤他団体の観客に観劇して もらえる機会の享受	⑩作品を広範に アピールしたいという 表現者としての欲求の実現 ⑪他団体の観客に 観劇してもらえる機会の享受	⑯市内の演劇活動の質の向上 ⑰他都市劇団の再来福の期待
観客 × 舞台芸術	③市内外の劇団と 交流する機会の享受	⑥新たなファンの獲得による 「知り合いの観劇」からの 脱却 ⑦市民の鑑賞力向上に伴う 劇団及び作品の質の向上	⑫新たなファンの獲得による 活動の拡大 ⑬通常の活動範囲エリア外の 観客の反応による劇団や 作品の質の向上	
舞台芸術の場 × 舞台芸術の場		⑧劇場ではない場所での 公演実施による制作力 や演出力の向上と、 多様なスペースで 公演できる実力の獲得		⑱大きなイベントとして 周知することによる 高い広報効果 ⑲練習場の存在や 活用方法を周知
その他		⑨広報や制作進行など 公演周辺業務の負担軽減	⑭広報や制作進行など 公演周辺業務の負担軽減 ⑮助成金など外部資金の 獲得可能性が向上	⑳福岡の演劇文化の活性化 他都市劇団や遠隔地からの 観覧者の飲食・宿泊による 経済効果

前年に比べ、ラインナップ
の多様化を図った。
一部の年代に特化した団体は
相応に、その他の団体は年代
問わず幅広く観劇するという
予想通りの結果。

①②

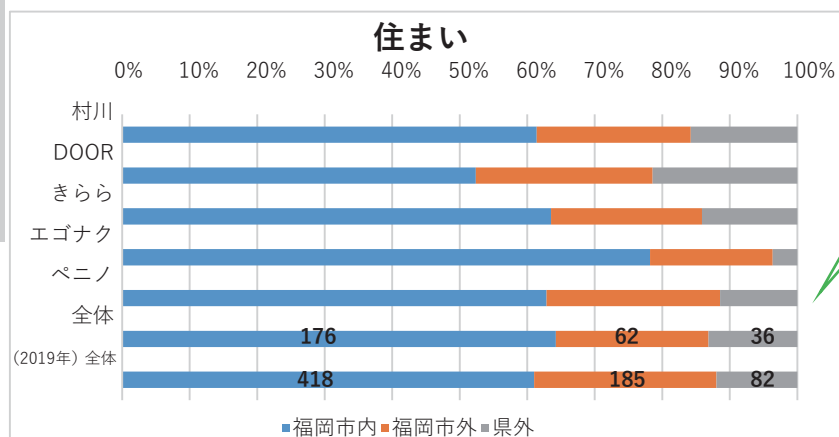
DOOR→30・40代
きらら→40・50代
エゴナク→10・20代



村川・ペニノは幅広い年
代の人が足を運んだ。

全体	269名
全体 (2019年)	687名

県外からの観劇者が想定より
少なかった。
団体によってはもっと人が動
くと想定していたが、新型コ
ロナウィルスの影響により人
の動きが制限されたことが一
因と思われる。

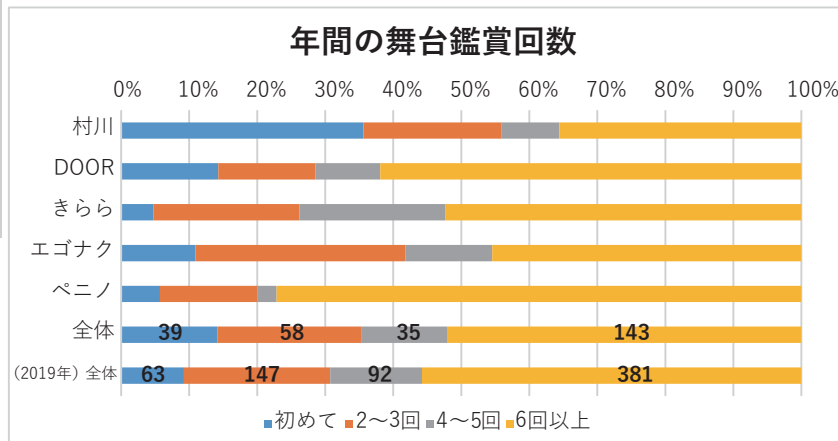


最終週のペニノは九州外か
らの来場者を相当数見込ん
でいたが、コロナ直撃の最
終週だったこともあり伸び
ず。

全体	274名
全体 (2019年)	685名

他業界からの観劇が想定される団体には相応の宣伝を行い、演劇初観劇者の取り込みができた。
再び足を運んでもらうことが課題。

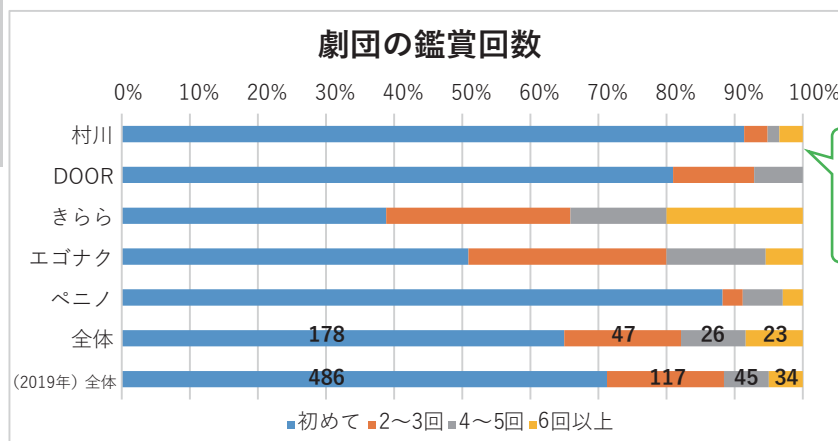
①②⑤⑪



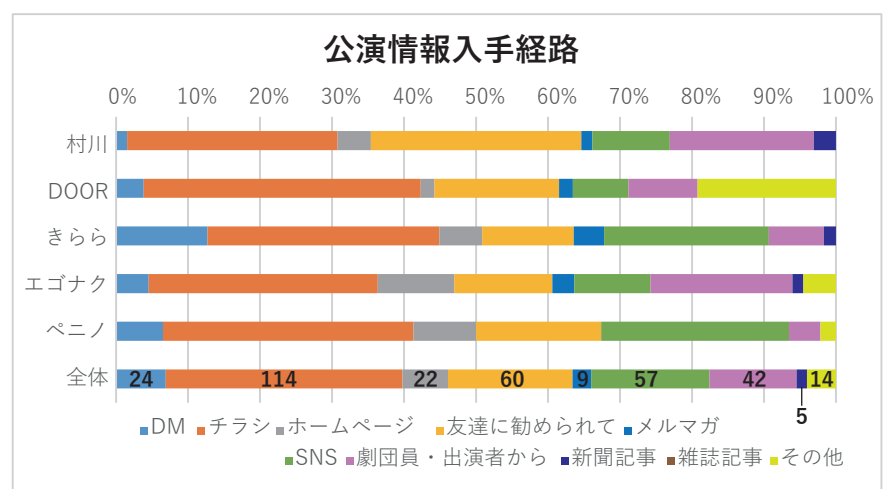
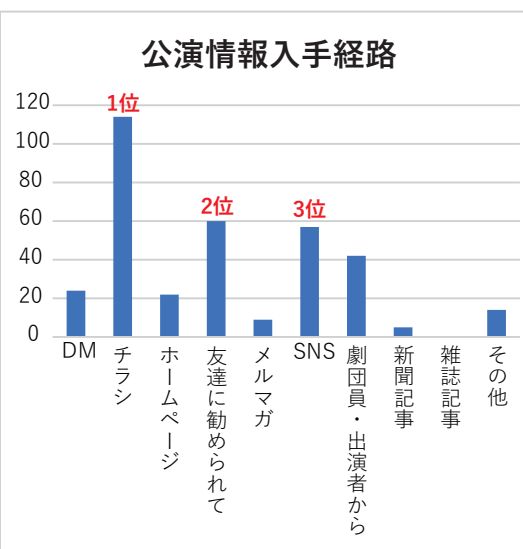
全体	275名
全体 (2019年)	683名

初福岡公演の団体の初見の割合は 80～90%。
参加団体と新たなお客様との出会いの創出に貢献。

⑤⑥⑪⑫⑬



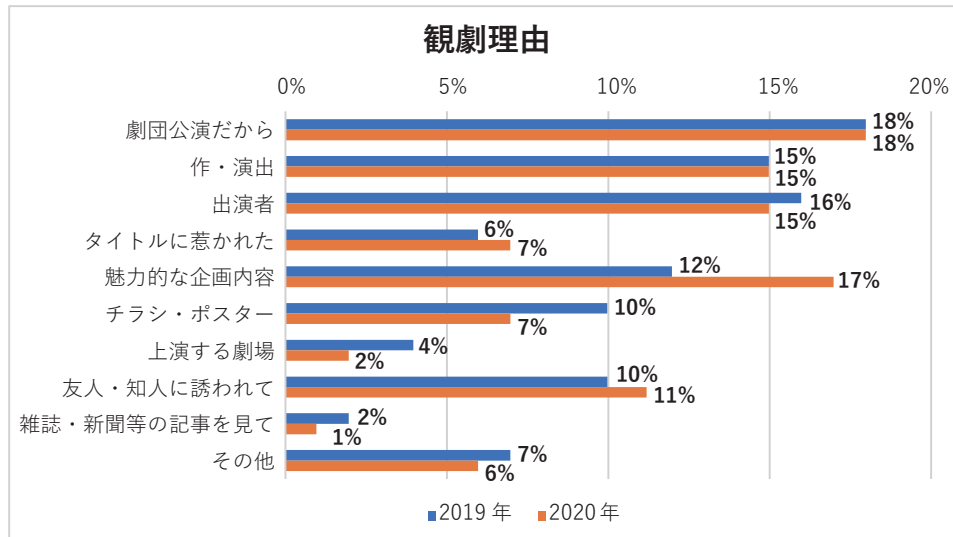
村川・DOOR・ペニノの初見率が高い。



前回までに引き続きチラシが安定の1位。SNSと「友達に勧められて」がほぼ同数。SNSと合わせて、口コミが目立つ結果となった。⑨⑭

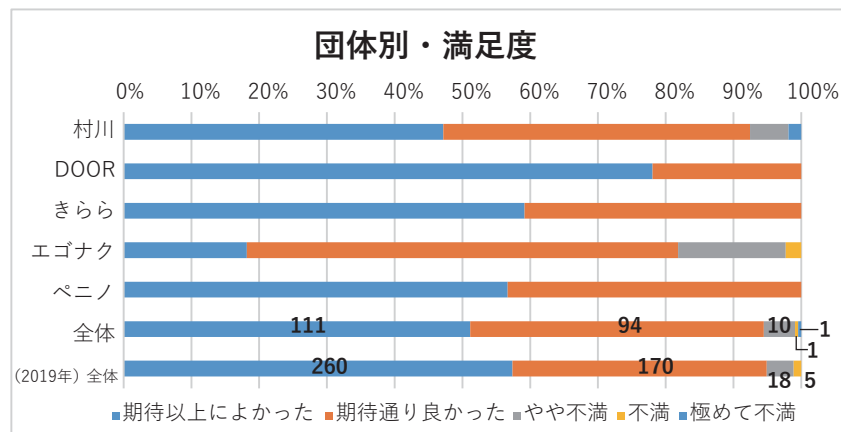
前年に比べ、各項目ほぼ同率だったが「魅力的な企画内容」が伸びた。

実験的な試みや珍しい手法での上演があったり、演劇初心者呼び込むための王道のものがあつたりと、特色ある作品が並んだ結果と考えられる。



満足度が一律では測れないラインナップであった。

次回も一定の満足度を得られることはランナップ選定の基準としつつ、幅広い層に観劇してもらえきっかけを創出する。①



全体	217名
全体 (2019年)	453名

次年度に向けて

■広報宣伝

情報の確定の遅れや、途中での演目変更等により、足並みをそろえた早期からの広報宣伝が実現しなかったことは、次年度への課題。また、新型コロナウイルスの影響により、観劇を呼びかけることそのものが自粛ムードとなってしまう、直前の広報に響いた。

■交流

交流会に全団体そろうことができなかった際に、その後は交流の機会を逸してしまうため、フェス開催期間を通じてつながれる企画等が必要。

■ラインナップ

県外からの招聘団体について、引き続き、このフェスという場だからこそ上演できるものを目指して選定を行う。福岡の団体について、“育成”の観点からの選定とその先の関わりが引き続き課題。

演劇フェスの役割と課題 ～キビるフェスより

寄稿 柴山麻紀



劇場飛び出し 社会と結び目



●福岡市から（順次）「アトマーズ」は現代の世相を浮かびあがらせる社会派「アトマーズ」舞台・演出
●福岡市から（順次）「アトマーズ」は現代の世相を浮かびあがらせる社会派「アトマーズ」舞台・演出
●福岡市から（順次）「アトマーズ」は現代の世相を浮かびあがらせる社会派「アトマーズ」舞台・演出

「キビるフェス」という福岡市の舞
台祭りを存じだろ。毎年2月
前後の週末にいくつもの演劇が上
れる催しである。本稿は、キビるフェ
スについて考察し、その取り組みが社
会においてどんな意味を持つのかを考
えてみたい。

少し遡る。福岡の舞台芸術環境は
1989年に商業演劇が始めた「アト
マーズ」(1989年)を契機に大きく変
わった。地元、演劇界が生まれた
のだ。その後、いずれも短期間だが8
年から福岡県大野城市で「KIND
O」(1990年)、90年から福岡市で「民間創
作劇場」などの演劇祭も生まれ、北
九州市では95年から「北九州演劇祭」
が始まる。北九州演劇祭の開催向
けての土壌作りであり、開演した後も
その気持は続いている。他方、200
0年代に入り演劇界が停滞気味だった
福岡市で06年に「福岡演劇フェス」
バル(福岡フェス)が誕生。演出・レ
ベや地元劇団に上演の機会を大々か
った。だが資金難で8年間続いた福岡
フェスは中止となる。そこで事務局を
していたアトマーズ・センター
福岡(AACF)が再び演劇祭をち
上げることにした。

会場にするところを思いいつ。自らも指
定観客のAACFは他の福岡市の指
定観客に声をかけた。劇場でやるも
のという固定観念を脱ぎ捨てるスタ
ートである。それがキビるフェスだ。
キビるフェスは演劇作品を全国から
5、6本、地元から1、2本上演する。
パリエーションに富んだ演劇祭だ。博
多井のまひる「結」が名前の由来。
その名の通り、上演だけでなく「劇団
同士を結ぶ、シンポジウムや共通テ
マのリーディング」、「劇団と観客をつ
なぐワークショップや交流会」、「観
客同士をつなぐ」感想を語るカフェな
どイベントも行う。

だが本フェスの真骨頂は、上演作品
を通じて芸術文化と社会を結びつ
けることにある。上演された演劇の多
くが社会性の強い作品であり「芸術は
社会と切り離せない」と強く主張して
いるのだ。過去4年に上演された24作
品を振り返ると、扱われている問題が多岐
にわたっていることに驚く。意識の自
由とヘイトスピーチ、SNS、ネット
右翼、戦時下の人体実験、監禁事件、
薬害エイズ事件、介護の現状……。「社
会性が強い作品」とは、直接的であれ
間接的であれ、社会での問題を作品の
中で浮き彫りにし、考えさせる作品のこ
とだ。観客は作品に社会の問題を見る
ことで、問題を知り、自分とは違う立
場について考え、客観的に問題を捉え
られるようになる。報告書記載の投稿
アンケートでも、芸術として楽しむた
けでなく、扱われている問題について
考えたことがわかる。すなわち、芸術
を通して観客も自らと社会とを結び
直しているわけだ。キビるフェスの大
きな功績である。

◇
今後に向けて最大の課題は、その名
を広く集客することだろう。なぜなら
このフェスを通じて「キビる」に
作業は「社会において必要な情報」を
かきとめ、同じ観客の作業であり、そして
それは多くの人がもっと考えるべき問
題だからだ。地方では多くの芸術家が
存続の危機にある。関係者が身を削り
て奔走し、観望し、開演した芸術祭は
全国にいくつもある。行政の責任は大
きいが、他方でこれを人ごととしてし
て考えられない市井の人々(私たち)
に責任はないだろうか。

東日本大震災の時に不要不急のはず
の芸術が人々に強く望まれたと聞く。
それはなぜか。あるいは、現在、新型
コロナウィルスの影響で音楽・芸術の
公演は中止が相次いでいる。生の芸術
に触れる機会が無いとは「悲」にとっ
てどういうことなのか。それがなく
なった「私の住む街」は、どういう街に
なるのか。想像してほしい。演劇であ
れ、音楽であれ、芸術文化が持つ意味
を「私」が具体的に考える。そして
初めて、「抱けられた地方」や「社
会」ではなく、自分が住む街について、
芸術や芸術祭がどんな意味を持つのか
も考えてみるはずだ。「私」がいる社
会と芸術を結びつけていくことが、人
と社会と芸術を成熟させるのだと考
える。(じやまき「演劇ライター」)

3つの目的は達成されているのか？

～キビるフェス 2020 雑感～

古賀 弥生（アートサポートふくおか代表）

4回目となったキビるフェス。福岡市に4つある音楽・演劇練習場をキビって、集中的に演劇公演を開催することで「はしご」を楽しめ、キビるトーク（今年は大澤寅雄さんと宮田智史さんの「カフェ」仕様）やキビるカフェ（柴山麻妃さんや演出家・役者も参加）でお芝居について語り合う「文化」が醸成されつつある。ほとんどが大人向けの社会派作品なので客層も大人が多く、福岡で演劇が大人の文化として根付きつつあるのだと実感する。東京、京都、大阪と、九州以外の地域を拠点とする劇団の公演を福岡に居ながらにして観られる。少し前までは考えられなかったことである。さらに今回、村川拓也作品にドラマトゥルクとして長津結一郎さんが並走するという、福岡ではまだなじみの薄い創作のあり方が導入されるなど、演劇表現の新たな形を探る状況が展開された。福岡のまちにとってキビるフェスの功績は大きいものがあるといえるだろう。

キビるフェス 2020 を振り返ると、まず言及せざるを得ないのは、新型コロナウイルス COVID19 の影響である。会期後半の時期、各種催しの中止・延期が相次ぐなか、最大限の配慮のもと公演を実施された関係者の判断は苦しいものだったに違いない。ご努力に敬意を表したい。

3つの目的

キビるフェスのコンセプトは冒頭に記載したとおり4つの音楽・演劇練習場をつなぐ舞台芸術祭だが、目的は以下の3点とされている（これまでの事業報告書より）。

- ①団体同士を「きびる」こと、「交流」がキーワード！
- ②連続して作品を上演する催事を行い、魅力ある街づくりの一翼を担う
- ③音楽・演劇練習場が連携、文化芸術を盛んにする流れを作り出す

①は、参加劇団同士や劇団と観客の「交流」を掲げており、②は福岡では観られない作品を招聘するなど、「演劇の街・福岡」をつくっていく、ということだろう。③は4施設の指定管理者に福岡市文化芸術振興財団と福岡市を加え、福岡市で公設の文化施設を設置・運営する関係者が手を携えて文化振興に取り組む機運を醸成したいということか。いずれも舞台芸術のための環境を整備することを意識しているようだ。

これらの事業目的は果たして達成されているのか。きちんとした振り返りはいずれどこかの機会にきっと行われるだろうが、現時点までのフェスの様子を横目で眺めながら一部関係者に話を聞いたところで、見えてきたことをまとめてみたい。

まず①「交流」について。参加劇団同士は記者発表時に集まる機会はあるが、会期中にお互いの作品を観たり、交流する機会をつくったりすることは現実的に難しいだろう。では参加劇団と地元劇団の関係はどうか。キビるフェス 2020 では、地元枠のブルーエゴナクの客席には地元の演劇関係者も多かったように見えた。これは、通常の地元劇団の公演の際に見られるいつもの光景である。また、熊本の劇団きららは福岡での公演の機会も多く、独自に築いてきた人脈があるように見受けられた。ただ、それ以外の県外招聘劇団については、客席に地元劇団関係者は多くなかったようである。一方、観客と参加劇団の交流はどうだろう。終演後のキビるトーク参加者は、劇団きらら（2月9日（日）16時開演の回）で入場者の85%、村川拓也（2月23日（日）19時開演の回）で79%に上り、多くの観客が席に残ってトークも含めて楽しんでい

た（数字は主催者による）。キビるカフェは、常連や実施される上演の回を選んで観劇する人も増えているようで、「交流」を楽しむ観客が育ちつつある感触がある。

続いて②「演劇の街・福岡」は実現に近づいているのか？「演劇の街」とは何か、という定義にもよるが、仮に「多様な作品を居ながらにして鑑賞できる街」だとすると、福岡では観られない作品を招聘していること自体、観客にとっての演劇環境が向上していることは確かだろう。ただ、「福岡では観られない」というのは、地元劇団の活動に欠けているものを外から持ってきているわけで、欠けた部分が地元で供給できるようになることも目標のひとつとなるはずである。ここでいう「欠けているもの」とは社会と切り結ぶような主題に挑む姿勢ではないか。実際、招聘劇団の作風は社会派といえるものが多い。だがキビるフェスの影響で地元劇団にも社会的な題材に取り組む作品が増えた、ようには見えない。地元劇団の創作活動がより多彩に行われる素地をつくるという意味では、街づくりはまだこれからだろう。

そして③文化施設の指定管理者等、舞台芸術に関わる環境整備の主役たちの連携について。フェスの初回、ぽんブラザホールとパピオビールームの2か所だった会場が2回目はなみきスクエアが、3回目にゆめアール大橋が加わり、4つの施設すべてが関わるようになった。参加施設数の増加の裏で行われたであろう諸調整は簡単ではなかったことと想像できるが、そうした調整の成果か、回を重ねて共同主催者としての意識が高まりつつあると聞く。フェスの開催以外にも連携して新たな動きが生まれるのかどうか、今後に期待したい。

なお、観客の中には旅行バッグを持つ人も時折見かけられ、フェスの開催がきっかけとなって来福する人たちが、数こそ多くはないものの確実にいたことを指摘しておきたい。3つの目的には掲げられていないが、県外からの招聘劇団も含め宿泊、飲食など小規模ながらも「経済」を回したといえるだろう。

どうしても気になること

3つの目的に照らしながらキビるフェスを振り返ると、観客にとっての演劇環境が確実に向上しているのに対し、地元の創り手に変化を与えてはいないように見えることは大いに気になる。このままでは、地元劇団の公演を観に行くのは関係者ばかり、目の肥えた地元の観客は外部からやってくる劇団等の公演を心待ちにするだけになるのではないか。この先、拠点文化施設が整備されるなど、これまで福岡で観ることができなかった舞台芸術作品を居ながらにして楽しめる環境はさらに向上するだろう。しかし、そこでは演劇が消費されるだけになりはしないか。

地元の創り手に、もっとキビるフェスに参加してほしい。観客としても、参加団体としても。フェスの会場は、地元劇団にとって日頃の練習や公演に使用している身近な場所ではないのだろうか。身近な会場で、日本の先端に行く舞台作品を目の当たりにする機会がありながら、地元劇団関係者が多くは集まらないように思える状況はなんとも残念である。

必要なのは「場所」との関係ではなく「人」との関係性なのかもしれない。4つの練習場が単なる「場所」ではなく、創り手と密な関係を持つ「人」がいるところになれば、様子が変わるかもしれない。そういう「人」が各練習場同士のつながりによる新たな活動も担うようになるのだろう。その日が来るまで、果たしてキビるフェスは続くのか。どうしても気になる。

キビるフェス実施会場

① ゆめアール大橋大練習室

福岡市南区大橋1-3-25
 ▷西鉄電車 天神大牟田線「大橋」駅東口すぐ
 ▷西鉄バス 「西鉄大橋駅」バス停下車すぐ

② パピオビルーム大練習室

福岡市博多区千代1-15-30
 ▷地下鉄 「千代県庁口」駅より徒歩約3分
 ▷西鉄バス 「千代一丁目」バス停より徒歩約1分
 「千代町」バス停より徒歩約3分
 ▷JR 鹿児島本線「吉塚」駅より徒歩約13分

③ なみきスクエア大練習室

福岡市東区千早4-21-45
 ▷西鉄電車 貝塚線「千早」駅より徒歩約1分
 ▷西鉄バス 「千早駅」バス停より徒歩約1分
 「名香野」バス停より徒歩約5分
 ▷JR 鹿児島本線「千早」駅より徒歩約1分

④ ぱんプラザホール

福岡市博多区祇園町8-3
 ▷地下鉄 「祇園」駅より徒歩約6分
 「中洲川端」駅より徒歩約10分
 ▷西鉄バス 「キャナルシティ博多前」バス停下車すぐ
 ▷JR 「博多」駅より徒歩約15分



キビるフェス 2020 ～福岡きびる舞台芸術祭～

主催：(公財)福岡市文化芸術振興財団、西部ガス興商株式会社、
 福岡舞台芸術施設運営共同事業体、(一社)九州地域舞台芸術振興会、
 なみきスクエアみらいネットワーク、福岡市
 協賛：九州地区舞台芸術運営協同組合
 企画制作：アートマネジメントセンター福岡



お問合せ先：アートマネジメントセンター福岡
 福岡市中央区大名1丁目14-28
 第一松村ビル(紺屋 2023)405号
 092-752-8880
<http://www.amcf.jp/>